

# つくしだより



令和5年9月号

ご存じですか？権利擁護センター

都連理事 前山 栄江

地域の社会福祉協議会では、高齢者、精神障害者、知的障害者で判断能力が十分でない方が、安心して住み慣れた地域生活が続けられるように、福祉サービスを受けられるように相談、支援しております。

## ◆サービスの内容

福祉サービスの情報・苦情受け付け 利用手続き援助

大切な書類の保管等不安のある方に対し預かり 一ヶ月 十円

・ 日常的金銭管理

(税金・社会保険料金・家賃の支払い 振込・預貯金の引き出し預け入れ。 解約手続き)

一時間八百円、以降三十分ごとに 四百円加算 交通費実費

・ その他成年後見制度の相談・受付 利用支援 法律相談(要予約)等

福祉サービス利用援助事業を行っております。

## ◆サービスの実施までの流れ

・ 相談受付

・ 専門員の訪問相談

・ 契約締結、

・ 能力の確認

・ 支援計画作成

・ 契約締結

・ 生活支援員による援助開始

サービスの一つとして行われている成年後見制度の相談・利用支援を紹介します。

## ◎成年後見制度

権利や財産を保護し、支えるための制度です。

## ① 法定後見制度

対象者は左記のとおりです。

・ 補助 判断能力が不十分な人

・ 保佐 判断能力が著しく不十分な人

・ 後見 ほとんど判断できない人を対象としています。

どの対象者になるかは、医師の診断書に基づいて家庭裁判所が判断します。

## ② 任意後見制度

支援を受ける人が元気なうちに誰を選任するか(親族、弁護士、司法書士、NPO法人等) 後見人を決めておき公証役場にて任意後見契約を結びます。

制度利用時に、「申立書の書き方がわからない。」「専門家に作成を依頼したい」という方の相談・記入方法や専門家の紹介も権利擁護センター

で行っています。

以上の説明は一例です。地域によって多少の違いもありますので、サービスを受ける前には権利擁護センターにお問い合わせ下さい。

また勉強会、講習会等も開催しております。漠然とした不安解消への一歩として参加されてはいかがでしょうか。

私は子供が記憶喪失になって警察から連絡を受け、子供の顔を見てほっとしました。今では自立して遠方で就職しておりますが、当手を振り返って思い出すことは、私たち親がいなくなったらと「親亡き後」の事でした。丁度その頃、社会貢献型後見人の養成講座の募集があり応募、一期生として研修を受けました。その後、文部科学省の委託事業で市民後見人養成プロジェクトに東京大学から声がかかり参加しました。今回は、権利擁護センターで活動した事の一部をご紹介させていただきます。

福祉サービス利用で困ったとき、財産管理や金銭に関係することで困ったときは、権利擁護センターに相談です。

ノーマライゼーションと現実

渋谷太陽の会 廣田 直子

8か月前からグループホームで働いている。入居者は知的障がい者の男性五人、一人は精神と重度身体障がいを重複している。通常、そのような重度の身体と知的、精神障がいを併せ持つ人を受け入れる場所はどこか地方にある大きな施設で、グループホームでの受け入れは今の我が国ではほぼ無い。そんなわけで、家族が自宅を提供して作り、何とか1年を迎えることができた。

重度身体を持つ入居者はとてもチャームインな性格で接していて楽しいが、寝たきりで自力で動くことはほぼ不可能だ。食事と排泄は介助が必要で車椅子の移動にはリフトを使う。身体にスリングを敷いて、両肩と股間から通した紐の部分にリフトのフックを引っかけて持ち車いすに押し込む。失敗したら怪我どころではないと緊張が走る。

食事はリビングに移動、流動食でなく他の入居者と同じ、出来立てほやほやのものを食べる。排便もオムツの中ではなく専用の椅子に移動して済ませる。

大きな施設では考えられないことだ。

だがそんなささやかで当たり前の日常を維

持する度に、介助者は少しずつ疲弊してゆく。人の命を扱うのに最低賃金とはどういうことなのか・・・。

なぜ男性の介助を女性にやらせているのか。当区（品川区）では障害者100人の地域生活を目指してグループホームの整備を公約し、区長が当選した。

しかし、働く人も働き続けられる人も少な過ぎる。待遇の改善がなされなければ、障がい者の地域移行など絵にかいた餅だ。滝山病院の悲劇が地域に移されるだけである。



訪問しました家族会

「青梅ほっとスマイル」

副会長 本田道子

青梅市福祉センターに行くための東青梅への旅は渋谷からの私にとってはまさに旅。久しぶりの青梅線です。7月22日土曜日の昼のこと、あちらこちらで百日紅の赤い花が梢にたくさんの花ざかり。印象的でした。

福祉センターは駅から歩いて5分ほど。福祉センターと名がつくものは駅近くにあるべ

し、と思っている私はよしよし、といったところですが。

会場での第一印象は、「あ、若返っている」でした。今回がたまたまそういう回だったのかも。今回は支援者の方がたの参加もありそういう印象だったのかも知れません。事前に私のこともお話を、と言われていたので「決断の時」要するに「腹をくるる時」のことを中心に話しました。

家族は「愛情というやっかいなもの」があるので第三者が思うようには行動に移せず、時間が必要だった、という私の苦い体験です。いつものように、そのあとは皆さんで話合いです。家族会でだからこそそのわかちあい、がここでも行われました。

青梅に呼んでもらい、地理的にはやっぱり遠い、と改めて思ったことです。

つくし会の催しものをするのは、どうしても23区が中心になってしまいます。距離を考えるとやっぱり大変なこと、と思います。東京は広い、と改めて実感しました。

また青梅市内でも交通の便は23区の比ではない筈。にもかかわらずたくさんの方参加です。皆様の思いを深く感じる事ができ、私にとって収穫の多い家族会訪問となりました。暖かく迎えていただき感謝です。

夜の静けさの中に突然ガタンという音がした。何かが落ちたようだ。

壁に飾られていた写真が長年の劣化で足元におちている。拾い上げてその茶色に変色した写真をしみじみとながめた。

写真の主はボビー。長い間我が家で生活を共にしてきた盲導犬、夫のパートナーである。犬種は真っ黒な毛並みのラブラドルレトリバー。夫の最初のパートナーになってもらった「アイメイト」である。

素直で優しく、アイメイトにはぴったりのもともいい性格で、そして盲導犬としてもすばらしく優秀な優等生であった。

日本で初めて盲導犬の「チャンピイ」を育てた塩屋健一氏の「東京アイメイト協会」157号、がボビーの名刺。

体格が大きくて立ち上がると身長160センチの私の顔と同じ位置に顔があった。大きな体のくせに大変な甘えん坊でそれがまた可愛くて得な性格の持ち主でもあった。

このボビーは盲導犬の普及にもずいぶんと貢献している。ボビーが夫のパートナーと

なつて間もなく彼は私と結婚することになった。

その頃も今もレストラン、ホテル、スーパーなど入店を断られるのが常であった。

それを私が丁寧に説明し、入店第一号になったホテルはあちこちにあつて私達夫婦の隠れた自慢でもある。絶対に入れてもらえないと評判のホテルにも私達は何年か前に泊まつていて、それはボビーがほえもせず、迷惑もかけず、りこうそうに見えたからに違いない、と今でも密かに思っている。

このボビーの母親のベルは優秀な盲導犬をたくさん産み、育てたとして今も渋谷西武デパートの玄関口でひっそりと佇んでいる。

(これを読んで興味を持たれた方は正面玄関からみて左側の入り口へどうぞ。)

ボビーが引退する時に友人のプロの写真家に記念写真をとってもらった。この写真が今回落っこちてきた写真である。

引退はボビーの年齢のせいもあつたけれど、ちようど息子が生まれて夫には子育ての新たな役目が増えたこともあり、盲導犬の交代の時期、となつたのであつた。

平均して2歳で盲導犬となりそれから10年程度が活躍できる時期らしい。

ボビーも12歳で引退し、余生は元外交官の家

庭に引き取られて平和な余生を送らせていたのだと聞いている。

盲導犬は今ではかなり普及してきて市民権まではいかずとも、時々街中で活躍中の様子を見かけることもあります。しかしながら、盲導犬を扱うのには体力も必要です、生き物ですから、日常のお世話も欠かせません。レストラン、ホテルなどの利用を考えると清潔感、は絶対です。毎日のブラッシングは疲れて帰ってきた身体には負担だつたことでしょう。

視覚障がいの方たちは歩いている時には大変な集中力が必要です。頭の中の地図によつて歩いてゆくのですから。盲導犬はそれのアシスタントに過ぎないのです。

現在はガイドヘルパーを使えるようになりました。盲導犬と比べてなんと素晴らしいことか。もちろん事前予約が必要で緊急時には対応できない、などということがあつても。も。

今回は視覚障がい者のことを書きました。その時に生まれた息子は精神障がい者として生きてゆくようになりました。どんな障がいにしても「障がい」と名がつけば生きづらさを伴うものです。

精神障がい者にもボビーのように優しいサポーターが寄り添ってくれるといいな。

## 家族会交流コーナー

このコーナーは、家族会間やつくし会との情報交流の場です。より良い家族会活動のために皆様に役立つ場にしたいと思っています。載せたい情報を毎月 25 日までに、つくし会事務所に、メール (tsukushikai@chorus.ocn.ne.jp) か FAX (042-453-7534) でお寄せください。

### 【知っ得情報】 交通運賃割引情報

#### 京王電鉄が精神障害者割引を実施 10月1日より

10月1日より、京急に続いて京王電鉄も精神障害者1級所持者に対して、交通運賃の割引を実施しますという発表がありました。

精神障害者1級所持者とその介護者が同乗する際、切符の乗車券を5割引きとするという制度です。切符の購入の際には駅の窓口の職員が対応するとの事です。購入には障害者手帳を提示する必要がありますが、IC乗車券と回数券、定期券は割引の対象とはなりません。当事者単独での乗車と、2級・3級の所持者には適用されません。

不満ですが、一步一步の進歩です。更なる拡大のために運動を続けましょう。

### ★ 賛助会費 (敬称略) ★

錦糸町クボタクリニック	5000円
ちひろメンタルクリニック	5000円
小島 頼子	3000円
石川クリニック	5000円

ありがとうございます。

### ★ 講演会のお知らせ ★

○「薬局・薬剤師との上手な付き合い方」  
日時 10月21日(土)

講師 薬剤師 藤田 剛氏

会場 新宿区立障害者福祉センター

主催 新宿フレンズ ☎080-8082-0308

○「東京都における精神保健・医療福祉の動向と当事者家族として、こころの病に寄りそっていくために」

日時 10月24日(火) 午後2時～4時

講師 東京都中部総合精神保健福祉センター

― 所長 熊谷 直樹氏 (精神科医)

会場 品川区立総合区民会館「きゅりあん」

6階 大会議室

主催 品川かもめ会 庄田 03-6768-4797

○「統合失調症の回復とはどういうことか」

日時 10月28日(土) 午後1時半～4時

講師 オリブ山病院 横田 泉氏

会場 世田谷区児童相談所(旧さくらぼーと)

要申込 先着90名

主催・申込 世田谷さくらぼーと ☎03-3308-1679

## 編集後記

九月 十五夜 秋分の日が近づきやっとならうか・・・。

心も体も元気が出ない憂鬱な梅雨が明けたら、すぐに猛暑となって気候の変化に体が付いていけなかった夏!!

コロナ感染拡大の自粛生活から、やっと解放され帰省や旅行を予定していた方も多かった夏!!

しかし台風上陸で大気の状態が不安定になり記録的な雨に見舞われました。

お盆のころは新幹線の計画運休もあり帰省や旅行も思うようにいかずに慌てた方も多かったようです。

厳しい暑さは出口が見えず、いつまで続くのでしょうか。九月、十月も平年より気温が高いと報道されていました。

電気代も値上がり、節電しながら熱中症に気を付けての夏!!

暑さが和らいで実りの秋が早く来るのが待ちどろしいです。

今年の夏は、家でビールと枝豆が一番だった私でした。

都連理事 前山 栄江



つくしだよりは赤い羽根共同基金の配分を受けて発行しています。